



親子で読書をしてみませんか

校長 野尻 一裕

新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着きを見せており、本校の学校図書館は大勢の子どもたちでにぎわっています。先週までは書棚に図書委員会が企画をした「あなたの好きな本」を紹介するカードが飾られていて、意欲的に読書に取り組む様子が伝わってきました。一般には「読書の秋」と言われますが、子ども読書の日は4月23日です。これは平成13年に成立した子ども読書活動推進法で決められている由緒正しいものです。年度初めのため、大々的にお知らせができていないのですが、全国各地でも取組が行われています。いずれにしても、季節を問わず、子どもと読書は切っても切れない関係にあります。

文部科学省の調査研究によると、児童生徒の読書活動は教科の学力に影響を及ぼすことが確認されています。特に読書好きの児童生徒ほど教科の学力が高いという傾向が強いということです。別の調査では、読解力が国語のみでなく、数学や理科にも影響を与えることがわかっています。どの教科でも問題文やグラフを読み解く力が問われるため、読解力の差がテストの結果に影響を与えることが明らかにされています。一般的に、読書の効果として、語彙が豊かになり話す時の表現力や文章を書く時の文章力が高まったり、脳内が活性化し思考力や想像力が高まったりすると言われています。コミュニケーション能力や豊かな発想力にもつながると考えられています。小学生の間に本好きな子どもになれば、一生読書に親しむことができることでしょう。親子で読書というのも素敵ですね。

家庭における子ども達の読書時間を奪っているのがテレビゲームやインターネットでの動画視聴ではないでしょうか。千歳市PTA連合会では、『千歳市家庭生活宣言』を出し、その中で、「スマートフォン・インターネットに関するちとせ統一ルール」を呼び掛けています。

- ・スマートフォンやゲーム、テレビの時間は2時間以内とします。
- ・午後9時以降はスマートフォンの使用やゲームを行いません。
- ・悪口や個人が特定される言葉や画像を書き込みません。
- ・学習や食事中には、電話やメール、SNSを使用しません。
- ・困ったときは、保護者や先生に相談します。



これからの時期、子ども達から「新しいゲームを買って（プレゼントして）もらう」という話をよく聞きます。楽しいはずのゲームからトラブルが生じて不愉快な思いをしたり、視力低下などの健康面での悪影響が出てしまったりする現実もあります。あらかじめ家庭で約束を決めておき、その約束を子ども達自身がしっかりと守って、（守られているか確かめながら）楽しんでもらいたいものです。